

クロカンバを食べるスジボソヤマキチョウ

井原道夫

2006年7月23日に長野県伊那市(旧長谷村)の鹿嶺高原で、クロカンバ *Rhamnus costata* の葉上に静止しているスジボソヤマキチョウ *Gonepteryx aspasia nipponica* の終齢幼虫を見つけた。食痕がみられたことで周辺を探して、幼虫および蛹8個体を確認することができた。このうち2個体を飯田市上郷黒田に持ち帰り経過をみたところ、7月28~29日に2♂が羽化した。



クロカンバを食すスジボソヤマキチョウの幼虫

鹿嶺高原のクロカンバが自生していた場所は、標高1800 m程の所であり、高所での発生例といえる。

これまでスジボソヤマキチョウの主な食樹としてクロウメモドキ・クロツバラが知られており、クロカンバは信州昆虫学会(1973)、福田ほか(1982)に記録がある。クロカンバ自体が少ない植物であり、少ない事例と思われるので記録しておく。

引用文献

福田晴夫・浜栄一・葛谷健・高橋昭・高橋真弓・田中番・田中洋・若林守男・渡辺康之, 1982, スジボソヤマキチョウ。「原色日本蝶類生態図鑑 I」, 171-173. 保育社。
信州昆虫学会編, 1973, スジボソヤマキチョウ。「信濃の蝶 II」, 134-137, 信学会。

(いはら みちお/飯田市上郷黒田 571)

長野県天龍村でササキリの幼虫を確認

四方圭一郎・小林正明

2007年9月、天龍村で秋鳴く虫の観察会を行ったさい、長野県からは南木曾町で一例記録(小林, 1981)があっただけであるササキリ *Conocephalus melaenus* を確認したので、記録しておく。



ササキリの幼虫

1 幼虫, 長野県天龍村伊那小沢, 8. IX. 2007, 小林確認, 四方撮影。

天龍村は長野県内でもっとも標高が低い場所のひとつで、天竜川にそって照葉樹林が分布し、多くの照葉樹林性の昆虫類の生息が確認されている。この場所では、長野県内では天龍村平岡より南のみに分布するクツワムシも同時に観察された。

引用文献

小林正明, 1981, 55. ササキリ *Conocephalus melas*. 「信州の秋に鳴く虫とそのなかま」, 162-163, 秋の虫の会。

(しかた けいいちろう/飯田市美術博物館)

(こばやし まさあき/飯田市座光寺 2155)